

3期12年 みなさんといっしょに実現しました

〔子育て〕

ついに温かい中学校給食に改善決定! 学校調理で今すぐに



2012年5月

2011年の初当選以来、みんなで食べる温かい神戸の中学校給食実現へ、署名を集め、県議会で再三要求するなど、市民の皆さんとともにずっと頑張ってきました。

そしてついに、冷たいお弁当から温かい全員給食に改善が決定。しかし東灘区での実施は2025年から26年にかけて。今すぐ学校調理で実施してもらいましょう。

中3まで医療費無料 県内ほとんどの自治体で実施

同じく中学卒業までの医療費無料化を一貫して訴えてきました。県の助成が拡大され、市町の上乗せで中学卒業まで無料が県内41市町のうち37市町に。その中で高校卒業まで無料が16市町あります。



2015年10月

残るは神戸など4市。神戸も早く無料にしましょう。

〔若者支援〕



奨学金返済支援制度が創設

奨学金返済を援助する中小企業に就職した若者に、県が年最大6万円支給する制度が2017年度に発足。福祉・介護施設も対象になりました。

きだ結が2014年に県議会で提案したものです。



〔新型コロナ対策〕

検査を拡大

この3年間、県議会健康福祉常任委員としてコロナ対策に奔走。17次に渡って県知事に申し入れ、感染拡大防止へ、大規模検査と、保健所など医療体制の抜本的強化を訴え続けました。

その結果、▽高齢者・障害者施設の定期的検査▽無料検査センター設置▽病床と保健師の増—などを実現しました。

業者支援に全力

東灘の商店・業者を訪問して苦しい実態を聞き、補償を県に強く要求。不十分ながら休業・時短営業協力金などが実施されました。



協力金の案内を持って訪問 (2021年2月)



ワクチン予約相談会 (2021年5月)

浸水・高潮対策が前進

2018年の台風による浸水被害で、県と市に対策をくり返し求め、深江の高橋川、御影の天神川、高羽川の橋や堤防かさ上げが実現。六甲アイランドの防潮扉設置など沿岸部の高潮対策も前進しました。



氾濫直後の高橋川・深江橋で被害を調査。左がきだ結 (2018年9月)



堤防かさ上げが進行 (2022年10月)

〔防災〕



災害現場の写真を示して県に要求 (2022年8月)

土砂災害 復旧・防災工事進展

保久良山の土砂崩れ、住吉台の急傾斜地の巨石転落など頻発する土砂災害で、県と市に復旧・防災を再三要求。各所で工事が完了しました。

〔ジェンダー平等〕

東灘発 痴漢対策 大きく前進!

市民の相談を受け2022年1月、きだ結と松本のり子、西ただす市議が共通テスト受験生を狙う痴漢の防止を各鉄道会社と県警に要請し、電車内や駅構内で「痴漢は犯罪」などのアナウンスが実現。

さらに取り組みを強め、その結果、神戸市交通局と県警が右のポスターを作り、県警は女性鉄道警察隊員を7名増員しました。



阪急電車で痴漢対策を申し入れ (2022年1月) 左から松本市議、きだ結、西市議



生理用品を学校トイレに常備

市民の皆さんと県教育委員会に働きかけ、県議会でも求めて今年度、多くの県立高校のトイレに生理用品が設置されました。小・中学校でも進みつつあります。

他にもいろいろ実現しました

- 私学の授業料補助の対象を年収910万円未満世帯まで広げ、年収590万円未満世帯は実質無料が大幅軽減
- 厳しかったDV被害者の県営住宅入居要件を緩和し、民間支援団体の確認だけで入居可能に
- 借り上げ復興県営住宅からの非人道的な震災被災者追い出しを中止させる
- イノシシ被害根絶に長年取り組み、県・市の対策が強化されて人身被害が減少

きだ結 HISTORY

京都市右京区出身。東灘区の神戸女子薬科大学(現神戸薬科大学)に進学し、1994年から薬剤師として東神戸病院などに16年間勤務しました。

働き始めて1年目、1995年の阪神・淡路大震災。全壊した寮のドアを蹴破って脱出し、たどり着いた職場・東神戸病院は野戦病院のようでした。必死に被災者救援にあたりました。

地震では助かったのに、身近な患者さんを含め多くの人が生活を立て直せず、自殺や孤独死することに胸を痛めました。被災者を置き去りにし、神戸空港建設に邁進する政治に心底憤りました。

このことが生き方の原点となりました。

また子育てをする中で、行政の子育て支援の少なさと、子育ての苦勞が女性に集中する現実を体験しました。私のジェンダー平等の思いの出発点です。

こうして政治を変えなくてはという気持ちが次第に強まり、議員の道にすすみました。



薬局窓口で (2010年6月)

期待します



東神戸病院 理事長 藤末 衛さん

長引くコロナ禍、きだ結さんは感染収束に尽力し地域医療と医療・介護従事者を支えてくれました。おかげで私たちはコロナに全力で立ち向かうことができました。薬剤師、子育ての経験を生かす女性県議、いっそうの活躍を期待します。



ウクライナから避難してきた方々に要望を聞く (2022年10月)



住吉フェスタで「だんじりくん」と (2022年10月)